

モジュール1

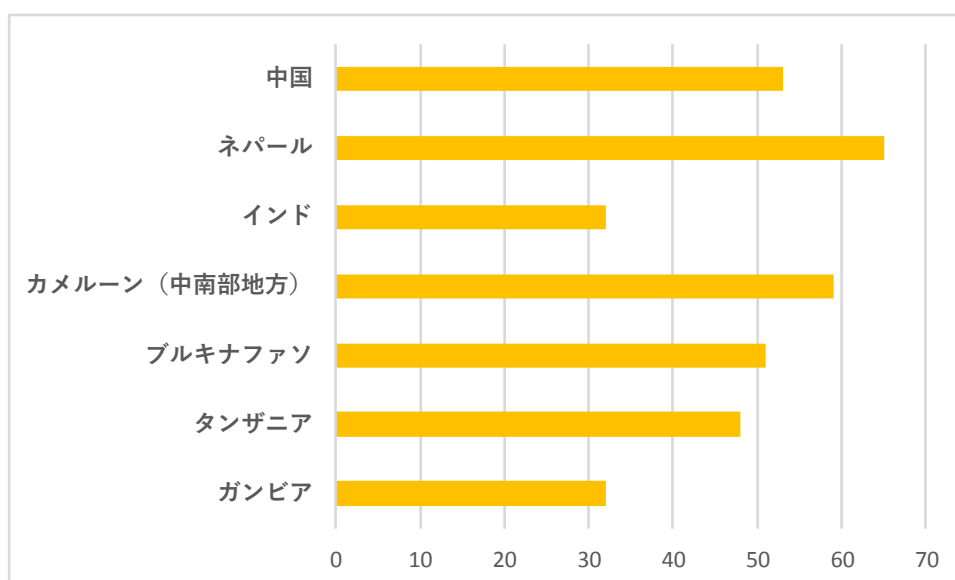
農業・農村開発とジェンダー

1. 農業における女性の貢献と課題

開発途上国においては、貧困層の4人に3人が農村地域に居住し、その多くが、直接的あるいは間接的に農業から日々の糧を得ていると言われています。従って、各国において、農業分野の発展は、直接的に貧困削減に寄与するものといえます。

このように開発途上国の貧困削減のため重要な役割を果たすとされる農業ですが、その労働力の多くが女性によって担われていることが、これまでに行われた多くの調査で明らかにされています。世界全体を見ると、農業労働の43%は女性が担っており、サハラ以南アフリカ、及び東・東南アジアの諸国においてはこの数値は50%に達するものと見積もられており¹、図1-1に示すように、国によっては、その割合は60%前後にも及んでいます。

図1-1：女性の農作業に占める割合（%）

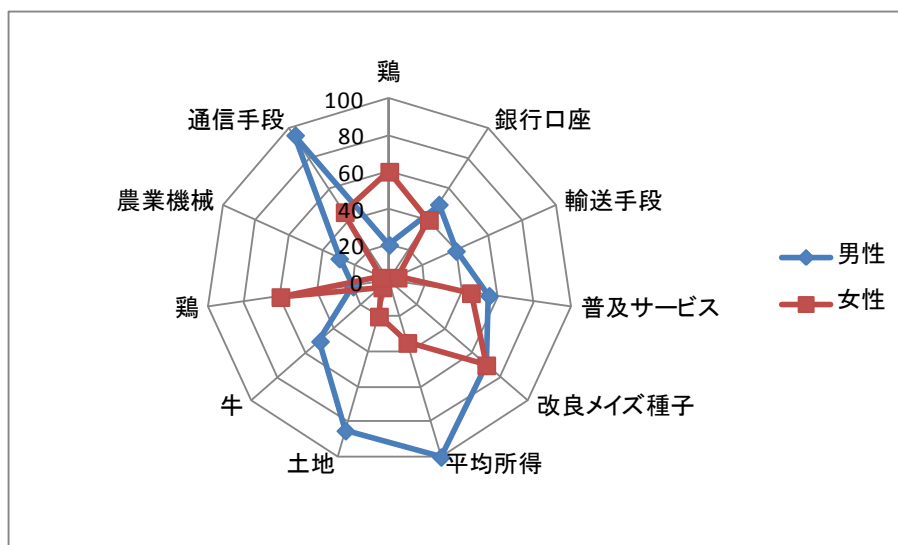


出典：The Role of Women in Agriculture prepared by the SOFA Team and Cheryl Doss, ESA Working Paper No. 11-02, FAO

しかし、女性は農業生産に大きく貢献する一方で、農業生産に不可欠とされる各種投入財、普及サービス等へのアクセスが、男性と比較すると極めて限定的となっている場合が多いとされています。図1-2は、ケニアの男女農家による主要な農業リソースに対するアクセス状況を示したのですが、土地や農業機械等の生産手段から、生産物を輸送するための輸送手段、多様な情報を入手するための通信手段にいたるまで、男性農家に比べ女性農家が不利な立場に置かれている事が分かります。

¹ The Role of Women in Agriculture prepared by the SOFA Team and Cheryl Doss, ESA Working Paper No. 11-02, FAO

図 1-2：ケニア農村男女の主要リソースに対するアクセス状況



出典：Republic of Kenya Gender Policy Note: Tapping the potential of Farming in Kenya, World Bank Report No. ACS5140.

このような男女間の差異は、女性戸主農家のみに影響を与えているわけではありません。同じ調査では、さらに「男性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯」、「女性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯」及び「女性戸主世帯」におけるそれぞれの農業リソースへのアクセス状況、そして農業収入も確認していますが、戸主の性別にかかわらず、男性に比べ女性がいずれにおいても低いことが明らかにされています（表 1-1 及び表 1-2）。

表 1-1：普及サービス・農業資材等へのアクセス

(単位：%)

	普及サービス	肥料 (年間使用量)	改良種子	殺虫剤
男性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯	54	78 (148kg)	89	57
女性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯	41	78 (92kg)	85	56
女性戸主世帯	36	75 (82kg)	75	41

出典：Republic of Kenya Gender Policy Note: Tapping the potential of Farming in Kenya, World Bank Report No. ACS5140.

表 1-2：主要作物ごとの農業収入

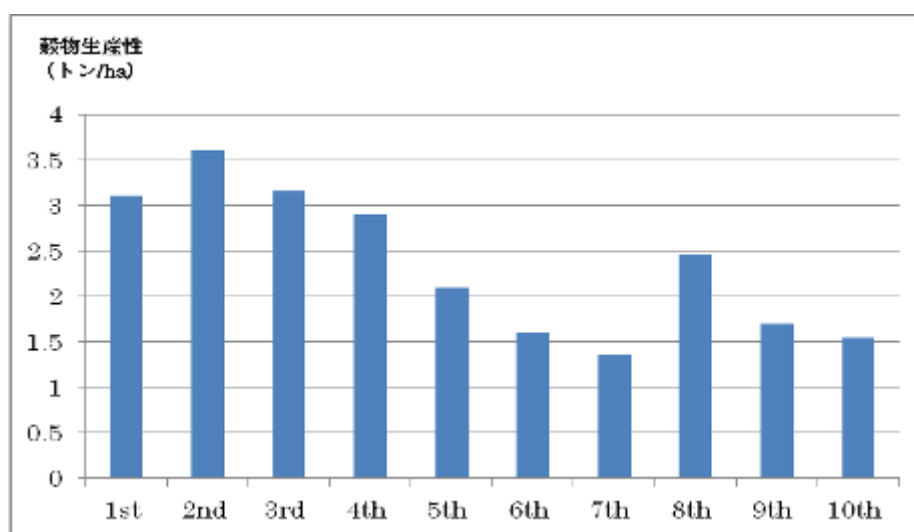
(単位：ケニア・シリング)

	メイズ	豆類	ジャガイモ	トマト	バナナ
男性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯	70,392	92,944	101,703	105,642	93,358
女性を主たる農業従事者とする男性戸主世帯	53,739	69,880	72,809	120,768	59,186
女性戸主世帯	42,202	58,168	52,561	60,809	69,432

出典：Republic of Kenya Gender Policy Note: Tapping the potential of Farming in Kenya, World Bank Report No. ACS5140.

また、世界各国のジェンダー平等の度合いを数値化した OECD の SIGI (Social Institutions and Gender Inequality) 指標を活用した調査においても、ジェンダー平等が進んでいる国の穀物生産性が、そうでない国に比べて、高くなる傾向がある事が報告されています (図 1-3)。

図 1-3：ジェンダー平等と穀物生産性



出典：The State of Food and Agriculture 2010-2011: Women and Agriculture Closing the gender gap for development FAO

(1stが、ジェンダー平等度が最も高いとされる国郡であり、10thが最も低い国郡である。)

このようにジェンダー間の不平等は、農業生産性に否定的な影響を与えることで、各世帯における食糧安全保障を危うくするばかりではなく、農業が経済活動の核である多くの発展途上国に、大きな経済的損失をもたらしていると言えます。女性が適切な投入財と技術を活用することができるようになれば、途上国全体の農業生産を 2.5 から 4%押し上げ、世界の飢餓人口を 12 から 17%減らすとの報告もあります²。

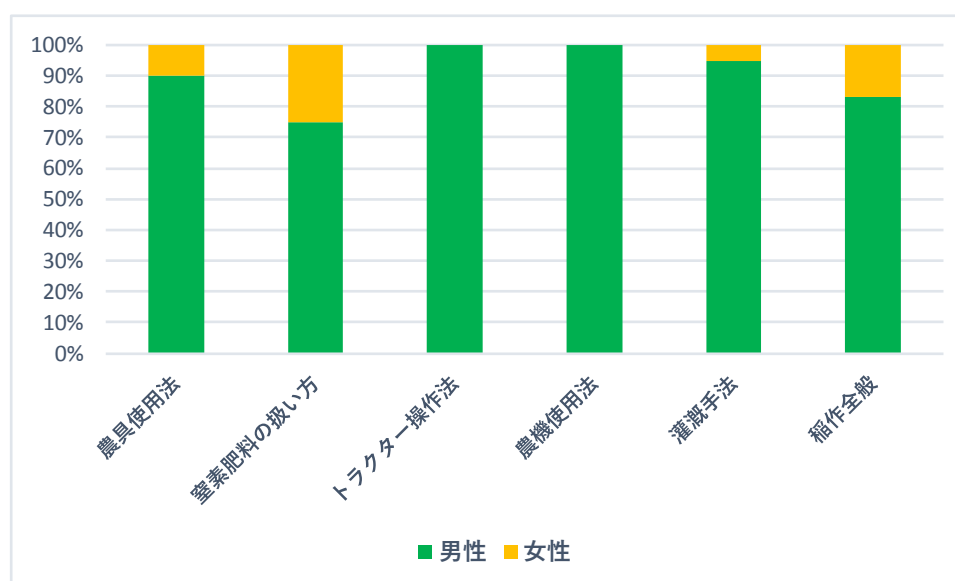
² The State of Food and Agriculture 2010-2011: Women and Agriculture, Closing the gender gap for development FAO

2. 課題の克服に向けて

一体なぜ、女性はこのような状況に置かれているのでしょうか。一つの事例をここで見ていきます。

図1-4は、1995年から2000年にかけて、アフリカのある国で実施された稲作生産向上プロジェクトが行った農家研修参加者の男女比を表したものです。女性農家の参加が著しく低いことが分かります。

図1-4：農家研修参加者男女比



プロジェクト側には、研修から女性を排除する意向は全くなく、カウンターパート機関である農業省行政官及び普及員を通じて、学ぶ意思があり、研修後は他の農家にプロジェクト推奨技術の普及に携わってくれることを条件に参加農家を募りました。そして、その結果、研修参加者の大部分は男性によって占められることとなりました。

プロジェクトでは、女性の参加が極めて限定的なこの状況について、その原因を探ってみました。その結果、農作業と共に、日々の家事労働を全面的に担う女性が非常に多忙であり、特に宿泊を伴う研修に参加する時間が取れないこと、研修は世帯主である男性が参加することが対象地域の慣例であること、女性は教育レベルが低いいため、プロジェクトが選考基準とした読み書きの能力を満たさないこと等が分かりました。

この調査結果が示すように、多くの女性は慣習的・文化的制約から自らの能力を高め、社会に参加していく機会が男性に比べて著しく少ないのが現状です。そしてそういった機会が少ないことが、さらに彼女ら

ちの可能性を狭めることにもつながり、ひいては、コミュニティの発展も阻害されるという悪循環につながっています。

JICA の農業・農村開発プロジェクトが対象とする地域には、多様な慣習や文化があります。社会の中で、重要な役割を果たしている男女双方が、プロジェクトからの便益を十分に享受し、その結果として、対象地域、そして対象国の持続的な農業生産性や農業収入の向上を達成するためには、女性の参加を阻む多様な慣習や文化を把握した上で、プロジェクトの戦略を練っていく事が不可欠です。そして、その際には、上述のような格差をもたらしている様々な要因を適切に把握し、ジェンダー格差の緩和、男女の関係性改善を図っていく事が重要となります。「男性だから」、「女性だから」という既成概念にとらわれず、男女双方の可能性を高め、彼・彼女らの生活を向上していくために何ができるのかという視点からのアプローチがあって初めて、より豊かな社会の実現が可能となると言えます。

ちなみに、上述の調査結果を踏まえ、後継プロジェクトでは様々な方策を採用しました。例えば、地域の有力者に働きかけて、女性の研修参加を呼びかけてもらいました。また、農家を対象としたジェンダー啓発研修を実施すると共に、女性の薪集めにかかる時間を削減するための改良かまどの導入支援、絵を多用した教材作成等が実施されています。これらの活動を通じて、プロジェクトが実施した研修の男女農家の参加比はほぼ半数ずつとなり、男女双方がプロジェクトの推奨技術を活用することで、各世帯における稲作収量の向上と言うプロジェクト目標を達成することに成功しています。

農業技術だけでは解決しえない農家が抱える課題を明らかにし、その解消を図ることが、農業生産性の向上、そして世帯や社会における食糧安全保障の確立へとつながっていく、これまでとは少し異なる視点で、プロジェクトを見つめなおすことが大切と言えます。

3. 基本的なジェンダー概念

ここでは、本教材を使用するにあたり、理解しておいていただきたい基本的なジェンダーの概念について、説明していきます。ジェンダーの基本的な知識があまりないと思われる方は、是非、一読してから、本教材を読み進めるようにして下さい。なお、ここで紹介している概念は、あくまでも本教材を使用するにあたり必要と思われる用語や概念に限定されています。ジェンダーについてより広範に学びたい方は、JICA のホームページ等を参照ください。

◎ セックスとジェンダー

セックスは男性や女性の生物学的な性別を指し、ジェンダーは社会的・文化的な背景を起因とする性別を指すものと言われています。例えば、生まれた時の性別は外性器の形から判断されるように、生物学的な観点から見た性別がセックスです。住む場所が変わっても、あるいは年齢を重ねても、一般的にセックス

としての男性は男性のままであり、女性は女性のままです。一方、ジェンダーは所属する社会が、「男性だから」あるいは「女性だから」として課す役割です。例えば、「男性だから泣いてはいけない」、「男性だから家族を養うべきだ」、また「女性は家庭を守るべきだ」、「女性は人前で発言してはいけない」等は、男女の生物学的な差異に起因するものではありません。これらは、個々人が所属する社会の文化・慣習の中で形成されてきた、男性、女性に対する行動様式、社会規範、役割です。セックスと異なりジェンダーは、国や地域、あるいは時代によって、多様です。例えば、皆さんの曾祖父や曾祖母の時代に当然と考えられていた男女の役割は、現代の日本で、当然と考えられている男女の役割とは異なっています。また、同じアフリカ諸国の中にも、水くみを男性の役割と考える地域と、女性の役割と考える地域があるように、誰がどのような役割を担うべきかの捉え方も、国、地域、文化等によって様々です。言い換えれば、セックスと異なりジェンダーは、可変であるという事です。

◎ 性別データ (Sex-disaggregated data)

これは、男女別に収集された数量データのことを指します。例えば、研修への出席者数を男女別で把握することで、男女の出席状況を確認することが出来ます。また、ある作物の収穫量を調査する際、データを男女別に収集することで、男女間に差異があるかどうか分かります。プロジェクトとして性別データを収集することの意義について、Box 1 をご参照ください。

Box 1

ある稲作生産向上プロジェクトで、プロジェクト対象農家グループに所属する農家 10 名にプロジェクトの推奨技術導入前後のヘクタール当たりの収量を訊ね、その平均値を比較しました。その結果、導入前はヘクタール当たり 1.8 トンだったのが 2.5 トンに増加していました。

→ さて、この技術の効果をどのように判断しますか？

その後、プロジェクトでは、10 名の平均収量ではなく、個人の収量についても確認したところ、その結果は、次の表の通りでした。

農家	性別	導入前収量 (トン)	導入後収量 (トン)	前後差
A	男	1.7	3.2	△1.5
B	男	2.0	3.8	△1.8
C	男	2.3	3.0	△1.7
D	男	1.3	2.9	△1.6
E	男	1.5	2.7	△1.2
F	男	2.5	2,7	△1.2

G	女	1.6	1.5	▼0.1
H	女	1.8	1.8	0
I	女	1.9	2.1	△0.2
J	女	1.4	1.3	▼0.1
平均		1.8	2.5	△0.7

→ さて、この技術の効果をどのように判断しますか？

◎ 性別役割分担

特定の社会や文化の中で、社会的な性別（ジェンダー）に基づいて固定化されている役割を指します。しかし、社会の中で、男性にふさわしいと考えられている役割が、必ずしも男性のみによって実践されているわけではないことに注意する必要があります。その逆も同様です。例えば、「家族を養うのは男性の役割である」と考えられている社会であっても、世帯収入の多くを女性が稼いでいる例はいくらでもあります。また、男性にふさわしいと思われている役割が、女性にふさわしいと思われている役割に比べ、社会的に高く評価されることも往々にしてあります。女性が担うことが多い家事や育児といった役割よりも、「外」に出て働くことに、社会は高い評価を与えがちです。さらに、同じ仕事であっても、男性が従事している場合と女性が従事している場合でその仕事の社会的評価が異なっていることもあります。これは、性別役割分担が、社会における男女の不平等な力関係に起因していることを表していると言えます。

◎ ジェンダー平等

ジェンダー平等とは、男性と女性が同じになることを目指すものではなく、人生や生活において、さまざまな機会が性別にかかわらず平等に与えられ、女性と男性が同様に自己実現の機会を得られるような社会の実現を目指すものです。しかしながら、現状では女性を不利な状況に置く差別的な慣習や政策・制度が世界的に存在しているため、同様の機会を与えるだけでは、ジェンダー平等を達成することはできないと考えられます。男女が同様に自己実現を達成するためには、政策や制度に基づく差別的な待遇のみならず、人々の意識そのものを変革していくとともに、女性の能力強化やエンパワメントに注視した取り組みを推進していく必要もあります。

◎ プロジェクトのジェンダー主流化

ジェンダー主流化は、開発プロジェクトの計画、実施、モニタリング・評価の各ステージで、男性と女性の関心、ニーズ、経験等を織り込みながら、プロジェクトを進めていくというアプローチです。このアプローチの目標は、男女双方がプロジェクトの便益を享受できるようにすること共に、既存のジェンダー間の不平等な力関係を出来るだけ解消していこうとすることです。ジェンダー主流化を行うことで、男女双

方がプロジェクトに積極的に関与することが可能となり、その結果としてプロジェクト目標の円滑な達成に貢献することにもなります。

◎ ジェンダー課題

ジェンダー課題は、男女の不平等な力関係に起因して生じる課題を指します。例えば、性別に基づく固定的な役割分担の考えに基づき、ある地域では男性のみが商人とされ、そのため、女性が商人になることが出来なかったり、あるいは商人としての活動が阻害されたりするような状況がある場合、それは「ジェンダー課題」であり、解決していくべき事項になります。